

平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	企業形態論		授業コード	E009701
担当教員名	奥田 憲昭			
配当学年	3年	開講期	前期	
必修・選択区分	選択	単位数	2.0	
履修上の注意または履修条件				
受講心得	講義をよく聞くとともに、教科書を用いて予習・復習を行い、なんども反復学習を行うこと。私語は禁止する。			
教科書	企業形態論 小松章著 新世社			
参考文献及び指定図書	教室で紹介する。			
関連科目	中小企業論、経営組織論			

授業の目的	企業形態論は企業に関する学問である。日本の企業を中心にその歴史と現状を理解することを目的としている。
授業の概要	授業は上記教科書を用いて行う。企業概念、企業形態の展開、企業制度史、法制上の企業形態、株式会社の現実、競争と独占、結合企業形態、企業格差の構造、企業の国際化、公企業、協同組合を取り上げる。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：企業概念 1. 企業概念、2. 私企業と家内営業、3. 公企業と共同組合、4. 企業形態の分類について学修する。	予習:教科書1章1頁～8頁 復習:繰り返し教科書を読む。
第2週：企業形態の展開Ⅰ 1. 企業形態の本質的意味、2. 企業の資本調達メカニズム、3. 企業前史について学修する。	予習:教科書2章11頁～18頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第3週：企業形態の展開Ⅱ 1. 個人企業、2. 合名会社、3. 合資会社、4. 株式合資会社、5. 株式会社、6. 有限会社、7. 合同会社といった企業形態の歴史的展開を学修する。	予習:教科書2章18頁～30頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第4週：日本の企業制度史 1. 原点としての明治期初頭、2. 官営事業、3. 株式会社制度、財閥の歴史について学修する。	予習:教科書3章31頁～54頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第5週：法制上の企業形態 1. 企業形態の種類、2. 法律による会社の定義、3. 会社の種類について学修する。	予習:教科書4章57頁～83頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第6週：株式会社の現実Ⅰ 1. 株式会社の表面的普及、2. 株式の公開・上場制度について学修する。	予習:教科書5章85頁～100頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第7週：株式会社の現実Ⅱ 1. 株主総会と株式構造、2. 経営者、2. 日本的会社観などについて学修する。	予習:教科書5章101頁～114頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第8週：中間確認試験 第1週から第7週までの範囲で試験を実施する。	試験勉強をすること
第9週：企業の競争と独占Ⅰ 1. 競争と超過利益、2. 競争のダイナミズム、3. 超過利益要因の保護、4. 過当競争を学修する。	予習:教科書6章117頁～134頁 を読んでおく。復習:繰り返し教科書を読む。
第10週：企業の競争と独占Ⅱ 1. 構造的独占、2. 企業結合の目的を学修する。	予習:教科書6章134頁～151頁 を読んでおく。復習:もう一度教科書を繰り返し読む。
第11週：結合企業形態	予習:教科書7章153頁～175頁

1. 結合企業形態の諸類型、2. 取引系列、3. 個別企業集団、4. 総合企業集団について学修する。		頁。もう一度教科書を繰り返し読む。
第12週：企業格差の構造 1. 企業規模、2. 企業格差の実態、3. 中小企業政策について学修する。		予習：教科書8章177頁～204頁を読んでおく。復習：プリントを繰り返し読む。
第13週：企業の国際化 1. 国際化の意味、2. 対外直接投資の推移、3. 海外進出の目的と方法、海外進出に伴う企業経営上の課題、企業の国際化に伴う政策上の課題について学修する。		予習：教科書9章207頁～228頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第14週：公企業 1. 公企業の性格と種類、2. 政府公企業、3. 地方公企業、4. 公企業の経営課題について学修する。		予習：教科書10章231頁～255頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第15週：協同組合 1. 共同組合の歴史、2. 協同組合の経営原則、3. 協同組合の種類、4. 協同組合の現実などについて学修する。試験の解説を行う。		予習：教科書11章257頁～288頁を読んでおく。復習：繰り返し教科書を読む。
第16週：期末試験		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	教科書で予習をし、講義をよく聞き、復習をする。
【知識・理解】	講義で取り上げた内容を理解する。
【技能・表現・コミュニケーション】	授業で与えられた課題をまとめる。
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等(テスト)	レポート・作品等(提出物)	発表・その他(無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。	40点			
【知識・理解】 ※「専門能力<知識の獲得>」を含む。	50点			
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力<知識の活用>」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。	10点			
(「人間力」について) ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	出席・中間試験・期末試験で総合的に評価する。
レポート・作品等(提出物)	
発表・その他(無形成果)	